宿利原中学校への想い

想いの詰まった閉校の看板

錦江町立宿利原中学校
校長　福元　邦敏

葉たばこと大根の産地で名高い風光明媚な宿利原に赴任して三年。閉校まで残り四か月となった。

これまで、生徒や保護者また地域の方々との多くの出会いがあり、私も楽しく有意義な毎日を過ごさせていただいた。海抜二百メートルの高台に位置し、夏は涼しく、冬は冷たく感じる。「六十一年間の思い出をありがとう」の看板も設置され、いよいよ歴史に幕を閉じる日も近づいてきた。六十一年の歴史を振り返ると、開校当時から、昭和四十年代は駅伝が盛んで、昭和四十三年には、県中学校駅伝大会で第三位の輝かしい記録が残っている。昭和五十年代から現在に至るまでは、生徒数の減少に伴いソフトテニスが主流になり、数々の大会で優勝をするなど歴史を残しています。

宿中といえば、ソフトテニス。保護者や地域の方々も学生時代ソフトテニスで青春を謳歌した方が多く、今もソフトテニスを愛する方が多い。

今年は、閉校最後の年ということで、閉校記念ソフトテニス大会・運動会・閉校記念文化祭等が生徒や保護者また地域の方々の理解と協力で盛会の内に終わり、すばらしい思い出を作っていただいたことに深く感謝いたします。

学校はなくなりますが、今までに築いてきた輝かしい歴史と伝統は、卒業生の心の中に永遠に残ると思います。

生徒の皆さん、錦江中でも自信と誇りを持ち、自分なりの輝きを見せて下さい。

錦江町立宿利原中学校
3年　宿利原　翔

今年で、この宿利原中学校の61年間という歴史が幕を閉じようとしています。僕は、この中学校に入ってたくさんの事を学びました。僕にとっては、すごく大きな存在でした。その中学校が閉校という言葉を聞いたとたん、信じられませんでした。

最後の運動会

一つ一つの行事が終わると同時に少しずつ実感がわいてきました。

今は、一日一日がすごく大切なような気がします。二年生になって、テニス部のキャプテンや生徒会長など色々な場面でこの中学校のことについて学び、中学校の伝統ある行事などをして、すごく誇りに思えてきています。

今年で、僕達三年生が最後の卒業生であることもうれしい反面ものすごく悲しい気持ちになります。しかし、僕達の後輩達は、中学校が合併しても、この中学校のことを一生忘れないように、しっかりと心に刻んで欲しいし、僕らと過ごした宿利原中学校というすばらしい学校があったことを忘れないで欲しいです。

閉校式実行委員長　今村　美義

我が宿利原中学校は、神川内之浦線の県道沿いで神川より約五キロメートル位の距離、標高二百数十メートルの所に校舎があります。その周辺に十一の集落があり、現在では道路も整備され、集落を一巡するにも車で十数分で出来るし、とても便利な地域だと思っております。

そんなさなかに、中学校統合問題が持ち上がりました。この統合問題については、今回が初めてではなく、約30年ぐらい前にも検討され、統合が決定される寸前になって、大根占まで生徒を通学させるには、その頃の道路の状況からして、生徒の送迎の問題や、特に中学校ともなれば部活動が重要な時期で、早朝や放課後の部活動終了後の送迎等の理由で、最終的には実現されなかった事実もあります。でも、ここ数年は生徒数が激減している以上、統合をせざるを得なくなったと思います。

しかし、いざ閉校するとなりますと、神川分校時代を合わせて61年間という長い歴史の中で、先輩、後輩の皆さんと共に数多くの楽しかった事、時には苦しかった事等思い出され、又宿利原から中学校がなくなると言う事は、過疎化が一層進むのではないかと懸念されます。でも、この宿利原から中学校が無くなっても、まだ小学校がありますので、あまり悪い事ばかり考えないで、小学校を中心に校区の皆さんと共に明るい、住み良い地域づくりに頑張りたいと思います。

今後も皆さん方の一層のご指導をお願い申し上げます。

地域の方が作った緑門

最後の音楽会

最後の修学旅行

母親が活躍した文化祭

1996年の校舎

校訓の刻まれた50周年の記念碑

綺麗な芝生と現在の校舎